

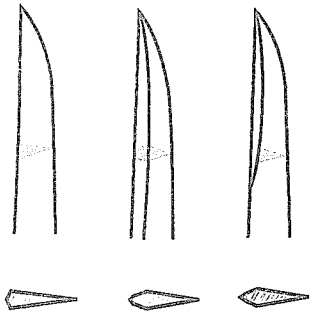
# 姿・地文・刃文の見方

日本刀の鑑賞は姿・地文・刃文を総合して行います。流派や時代で変化し、各刀工の特徴が表れます。刃物の金属表面を美的対象とする日本独自の文化により、各部分の特徴を正確に表すため、日本刀のための独自の言葉が多数生まれ、発展してきました。耳慣れない言葉が多いですが、このシートを手がかりに、実物と解説を見比べながら、日本刀の美しさを味わってみましょう。

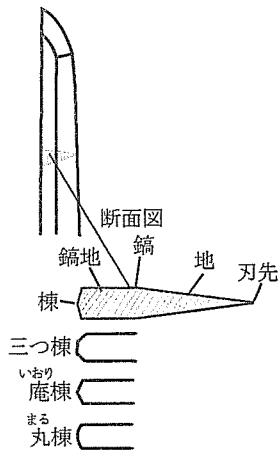
## 姿

ゆるやかな曲線、「鑄造」と「反り」は日本刀特有の形状です。

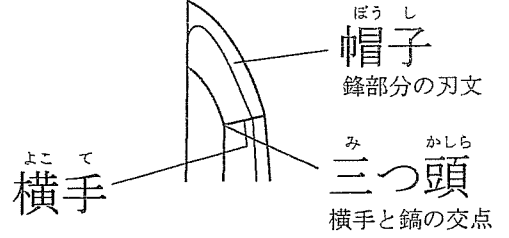
ひらづくり 平造  
しょうぶづくり 菖蒲造  
かんむりおとしづくり 冠落造



しのぎづくり 鑄造



きつさき 鋒  
小鋒 (幅広に短い鋒)  
猪首鋒 (幅広に短い鋒)  
中鋒  
大鋒



よこて 横手  
ぼうし 帽子  
鋒部分の刃文  
み かしら 三つ頭  
横手と鑄の交点  
そ 反り  
腰反り (元に近いところで反る)  
輪反り (中ほどで反る)  
先反り (先の方で反る)

むね 棟

しのぎ 鑄地

しのぎ 鑄

じ 地

はもん 刃文

はさき 刃先

- 銘
- 無銘 (銘がないもの。作風から作者の判断をする)
  - 額銘 (磨り上げの際に銘を切り取って嵌めたもの)
  - 折返銘 (磨り上げの際に元の茎を折り曲げたもの)
  - 底銘 (茎が朽ちたりして銘がかすかに見えるもの)
  - 金象嵌銘 (後世本阿弥家が太磨上げの刀に金で嵌めたもの)
  - 朱銘 (後世本阿弥家が生ぶ茎無銘の刀に朱漆で書いたもの)

むね まち 棟区

は まち 刃区

- なかが 茎
- う 生ぶ茎 (製作当時そのままの茎)
  - すりあ 磨上げ (茎を一部削って短くしたもの)
  - 大磨上げ (元の茎がなくなるまで短くしたもの)

安綱

めくぎあな 目釘穴

柄と刀身を固定する目釘のための孔